

I 第32週の発生動向 (2009/8/3~2009/8/9)

- インフルエンザについては、迅速診断キットによる各保健所管内の内訳は、弘前 (A:12人)、八戸 (A:5人)、五所川原 (A:1人)、上十三 (A:12人,B:1人)、むつ (A:9人)、青森市 (A:3人) でした。
- 手足口病については、青森市保健所管内において、前週に引き続き**警報**が発令されています。

II 第32週の新型インフルエンザ (A/H1N1) 情報

() 内は累計です

	東地方	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ	青森市
確定患者	-	1(2)	4(4)	3(3)	2(2)	1(1)	2(2)
疑似症患者	-	30(36)	14(14)	1(1)	24(24)	8(8)	7(7)

III 第32週五類感染症定点把握

注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
小児科 内科 (85) インフルエンザ	3	0.2	12	0.8	5	0.4	1	0.1	13	1.4	9	1.5	43	0.7	43			3	0.3
小児科 (74) RSウイルス感染症			1	0.1									1	0.0	1				
(75) 咽頭結膜熱	1	0.1	1	0.1	1	0.1					5	1.3	8	0.2	-6	1	1.0		
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.4	4	0.4	2	0.2			11	1.8	3	0.8	24	0.6	-4			4	0.5
(77) 感染性胃腸炎	18	2.0	3	0.3	11	1.2	8	1.6	5	0.8	8	2.0	53	1.3	0	2	2.0	16	2.0
(78) 水痘	11	1.2	3	0.3	5	0.6	1	0.2	5	0.8	3	0.8	28	0.7	-9	2	2.0	9	1.1
(79) 手足口病	119	13.2	32	3.6	1	0.1	15	3.0	1	0.2	17	4.3	185	4.4	-21			119	14.9
(80) 伝染性紅斑	5	0.6											5	0.1	-2			5	0.6
(81) 突発性発しん	7	0.8	4	0.4	2	0.2	1	0.2	4	0.7	6	1.5	24	0.6	2			7	0.9
(82) 百日咳															0				
(83) ヘルパンギーナ	3	0.3	12	1.3	3	0.3	1	0.2	5	0.8	5	1.3	29	0.7	-3			3	0.4
(84) 流行性耳下腺炎	5	0.6	5	0.6	1	0.1	2	0.4	1	0.2	3	0.8	17	0.4	5			5	0.6
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	1	0.5			1	0.5							2	0.2	-1			1	0.5
基幹 (95) マイコプラズマ肺炎					6	6.0					3	3.0	9	1.5	1				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (小児科+内科)	小児科	眼科	基幹
東地方	2	1	0	0
青森市	11	8	2	1
弘前	15	9	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

は警報、は注意報。「空欄」：患者発生無し。

IV 表II以外の感染症法対象疾患 (注：届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前3人、八戸2人、上十三2人、青森市1人 (21年計：223人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：弘前1人、八戸3人、上十三1人 (21年計：13人)
- (34) つつが虫病(四類全数把握疾患)：八戸1人 (21年計：10人)

V 病原体検出情報

※ () 内は、検体採取日です

・弘前地域における手足口病患者1名 (7/28) の咽頭ぬぐい液から、**コクサッキーウイルスA16型**が検出されました。

過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の窓

日本脳炎

(四類全数把握疾患)

蚊に媒介される感染症には、デング熱、マラリア、西ナイル熱、黄熱、日本脳炎などがあります。このうち、日本脳炎は、南アジアから東南アジアなどに広く分布し、日本では、主にコガタアカイエカが媒介します。ヒトからヒトへの感染は無く、ブタで増え、そのブタの血液を蚊が吸血、その蚊がヒトを刺した時に感染します。本疾患の多くは無症状ですが、重篤な急性脳炎を起こすこともあります。

感染症流行予測調査事業では、全国各地のブタ血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体を赤血球凝集抑制法(HI法)を用いて測定することにより、間接的に日本脳炎ウイルスの蔓延および活動状況を調査しています(右図)。予防接種を受けていない人や、流行地域へ出かける方は、蚊に刺されないような工夫をすることが感染予防上重要です。

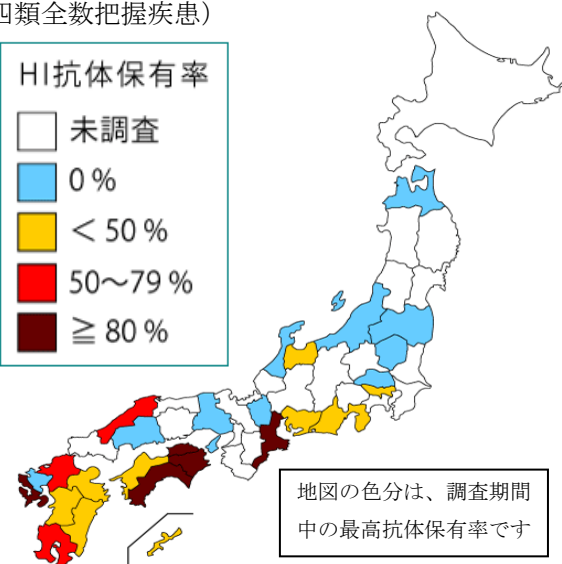
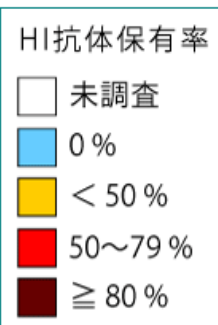


図 ブタの日本脳炎HI抗体保有状況調査 (2009年8月7日現在) 出典：国立感染症研究所